

友松対談 ⑨



堀内信行先生 近影

この「友松対談」という欄にはいろいろな会員の方が登場していますが、これまでに最高齢の方は98歳でした。ところが、「川崎には、105歳で元気な会員がおられる」という話を聞いて驚きました。そこでさっそくお願いしてお話を伺ってきました。以下の対談は、そのときにお聞きしたことです。

【2013.4.23取材】

幾山河越えさり行きて105歳

語り手 堀内信行（昭和3年-1928 神師卒）
聞き手 黒川鈴谷（昭和35年-1960 国大卒）

黒川 本日は突然のお願いにも関わらず、こころよくご承知頂きましてありがとうございます。お見かけしたところお顔の色艶といい、また先ほどご挨拶した折のお声の大きさといい、全く100歳をとうに超えた方とは信じられないくらいで、本当に驚きました。さっそくお伺いしますが、先生は明治何年のお生まれですか。

堀内 私は明治40年7月2日に、富士山麓の河口湖畔に生まれました。今年7月の誕生日がくると106歳になります。

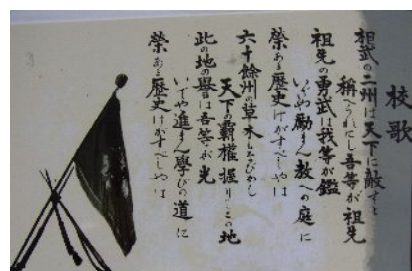
黒川 先生は郷里の山梨県の高等小学校を卒業されて、鎌倉の師範学校に入学されたのですが、当時の師範の入学資格は高小卒だったのですね。

堀内 私は大正13年に入学したのですが、当時の入学資格は「本科第一部」が高小3年卒、「予備科」が高小2年卒でした。私は高小3年卒で、本科第一部に入学しました。

黒川 当時の中等学校の入学資格は尋常小学校卒なのに、師範は高小卒が入学資格で、中学(旧制)よりも年長者を入学させていますね。これはなぜなのでしょう。

堀内 さあ、制度のことなので、私にはその理由は分かりません。ただ考えられることは、師範は全寮制なので、ある程度の年長者でないと入学後の適応が難しいと思われたのかも知れませんね。

黒川 先生は山梨県のご出身ですが、昔から県の教育界には山梨の方が多かったように思います。これはどんな理由でしょうかね。戦前に兵役のある頃は、神奈川県の徴兵事務を管轄するのは甲府の連隊区司令部で、県内の歩兵入隊者は甲府の歩兵連隊に入隊しました。だから神奈川県と山梨県は、なんとなく繋がりがあったのですね。



神奈川県師範学校 校歌と校旗

堀内 そう言うことも有るかもしれませんが、一番大きな理由は神奈川に比べて山梨の人口が少ないということですね。人口が少なれば児童数も少なく、教員の採用数も少ないですからね。まあ私の場合はそこまで考えたわけではなく、直接の動機としては小学校時代の恩師がすぐ隣に住んでおられて教職に惹かれるものを感じたのと、たまたま高小時代の親友に誘われて、模擬試験のような気分で鎌倉師範を受験したら、運よく合格したのです。

黒川 神奈川師範への入学や卒業は何年ですか。

堀内 大正13年の4月8日に入学しました。山梨の寒村から父に連れられ鎌倉駅に下車すると、八幡宮前の桜が満開で私達の入学を祝福してくれるようでした。「由緒ある恵まれた環境の鎌倉師範で教育を受ける仕合せを胸にしっかりと抱いて勉強せよ」との校長先生の式辞でした。卒業したのは、昭和3年3月です。

黒川 もしかしたら堀内先生は師範在学中に、震災を経験されたのかもと思っていたのですが、直接経験されなかったとしても、震災の直後ですからいろいろ大変だったでしょうね。神奈川師範の沿革を見ると「関東大震災で、全校舎が倒壊」とありますが、先生が入学された頃、師範の授業はどこで行なっていたのですか。近くの他の施設を借りたのですか。

堀内 大臣山の下の方にある教室で倒壊しなかったものもあり、それらと応急に建てたバラック校舎とで授業を行ないました。

黒川 そうすると近くの小学校とか、寺社とかの施設を借りたりはしなかったのですね。

堀内 そうです。外部の施設を借りたりはしませんでした。教科書中心の授業は支障なく実施されましたが、実験や実習をともなう教科の準備や実施は、師範の先生方の大変なご尽力があったと思います。

黒川 師範は全寮制でしたから寄宿舎も必要ですが、それらも大丈夫だったのですか。

堀内 寄宿舎も寮が四つありましたが、いずれも全壊ではなかったので傷んだところを補修して使いました。



師範在学当時の堀内先生

黒川 関東大震災が起こったのは大正12年9月1日ですが、そのとき師範の在校生や教職員に犠牲者が出たのでしょうか。どこにも記録が無いのでよく分からないのですが、あれだけの災害で校舎も倒壊したのに、犠牲が無かったとは考えられないのですが。

堀内 犠牲者については聞いていません。たぶん無かったと思います。

黒川 えーっ、本当ですか。ちょっと信じがたい話ですが。

堀内 地震が起こった9月1日には師範の生徒は学校には一人もいなかったのです。何故かという一般の学校の一学期は7月の20日に終わります。しかし師範は7月25日まで授業を続けて、そのかわりに二学期の始まりは9月の6日頃でした。だから9月1日には、生徒はまだ自宅にいたのです。ことによると自宅で被害を受けた人はいるかもしれませんが。



大正14年完成の校舎(昭和40年1月焼失)

黒川 いや、よく分かりました。ありがとうございます。その当時は誰でも知っていたことでも、記録が無いと後ではわからなくなってしまうのですね。それで新しい校舎が出来たのは、二年後の大正14年ですがそのときのことを何か覚えておられますか。

堀内 新校舎が完成したときには、教育実習中だったのか記念式典などは思い出せません。でも嬉しかったことは確かです。その時の気持ちを今つたない短歌にしますと、「新しき木の香ただよう学び舎は 入学頃の心地なりしを」、そんな感慨で過ごしたことが思い出されます。

黒川 これまでに何人かの師範の卒業生にお話を伺いました。その中で一番年長だったのは昭和10年卒業でもうじき99歳になる桐生一さんという方です。桐生さんは昭和3年に師範に

入学したそうですから、堀内先生とはちょうど入れ替りの感じですね。その方から聞いた話の記録をお送りしておいたのでご覧いただけたと思うのですが、当時の師範学校の生活は、桐生さんの話と基本的には変わりませんか。

堀内 だいたい、あそこに書かれている通りですね。

黒川 起床や食事など行動は全て、ラップの合図で行動したのですね。

堀内 そうです。ただ私達の頃は生徒がラップを吹くということはありませんでした。学校の門衛をやったり、毎日のラップを吹く係の職員がいました。横須賀が近いので、たぶん海軍の兵役を終えたような人が勤めていたのではないのでしょうか。寄宿舎での生活は一室に十人の共同生活でした。上級生の指導のもとに規則正しい寮生活を続けたことは、教師となる上での人間形成に役立ったと思います。ときどき息抜きに「室会」を開き、ご馳走を並べて楽な気持ちで将来の夢を語り合いました。

黒川 私は国大の8期なのですが、入学のときに「国語」「数学」「社会」など細かく専攻が分かれていました。戦中 末期から戦後にかけて師範を卒業した先輩は、卒業の1~2年前に教科の専攻に分かれた学級編成だったそうです。堀内先生の師範在学中は、教科別の専攻があったのですか。あったとすれば、それはいつ頃決まったのですか。



楽しい室会(昭和6年頃)



工作実習・バケツ作り(昭和6年頃)

堀内 私達のときには入学から卒業まで、教科の専攻というものはありませんでした。ただ1年か2年のとき、将来都会の学校を希望するものは「商業」を、農村を希望するものは「農業」を選択しました。

黒川 師範在学中に、勉強などで苦労されたというようなことがございましたか。

堀内 師範学校では、教員養成という学校の目的から、普通教科だけでなく教育学・心理学・教授法や更に音楽・美術・工作などの技芸教科も重視されました。私のように生来

不器用の上に山家育ちで芸術的な素養のないものにとっては、まことに難行苦行でした。

黒川 教員養成の面では教育実習が欠かせませんが、実習は最終学年だったのですか。また附属での実習の他に、地方の学校での実習はありましたか。

堀内 私達は5年生の1学期に、約3ヶ月間実習をしました。配属先は第二附属小学校(片瀬の正修小学校)で1年生を担当しました。1校時45分の授業を、算数20分・音楽25分というように分割した時間割で実に慌しく、1年生の指導は難しいことが良く分かりました。

黒川 最終学年で実習が終るといよいよ卒業が近付くのですが、卒業後の赴任校はどのようにして決まったのでしょうか。個人の希望などは聞いてもらったのですか。



附属小での教育実習(昭和6年頃)

堀内 卒業する年の3月初め頃に係の先生に希望の赴任先を記入した「郡市希望調査票」を提出しました。この希望票をもとに県の学務課で赴任する郡・

市を決定し、その後で郡・市役所より赴任校を指示されました。卒業式前夜には送別会が盛大に行なわれるのが恒例になっていましたが、毎年その席上で卒業生の任地を発表することになっていました。私は運よく第一希望の川崎市に決定し、在校生諸君から拍手されたことは、忘れられない嬉しい思い出です。

黒川 私達の時代ですと、無事卒業して初任校に赴任するわけですが、堀内先生の頃には兵役というもう一つの関門がありましたね。その点についてお話いただきたいのですが。

堀内 当時の師範学校の生徒は、配属将校によってかなり厳しく軍事教練を仕込まれました。五年生になると査閲官が来校して、その前で教練で鍛えられた演習をやって見せるのです。私達の時の査閲官は朝香宮殿下で確か陸軍中将だったと思います。それに対して師範の配属将校は少佐かせいぜい中佐くらいですから、配属将校もコチンコチンに緊張していました。講評の結果は「よろしい」ということで、教官も私達も安心しました。

黒川 なんだか研究発表会の授業で緊張するみたいですね。昭和3年入学の桐生さんに話を聞いたところでは、桐生さんは在学中に肋膜炎を患ったので教練検定は不合格で、兵隊検査は丙種合格だったそうです。

堀内 私は教練の結果は合格だったのですが、兵隊検査では身長が甲種合格の規定すれすれでした。しかし検査官が「おまえは身長はあまり無いが、全体にがっちりしているから甲種合格」ということになりました。そして師範を三月に卒業すると、せっかく赴任が決まった学校に行く暇もなく、4月1日に近衛歩兵第一連隊に入隊しました。

黒川 近衛歩兵第一連隊と言えば日本陸軍の中でエリート中のエリート部隊でしたが、どの部隊に配属されるかは、全く一方的に決められるのですか、ある程度希望が通るのですか。

堀内 いやそれは一方的に決められて、通知されるだけです。

黒川 一般の徴兵検査では、検査官に歩兵・騎兵などの希望の兵種とか或いは海軍に行きたいとか、検査を受けた者が希望を述べることを許されていました。それも無かったのですね。

堀内 はい、個人の希望を述べたり、聞かれたりすることは全くありませんでした。鎌倉師範の卒業生はほとんど全員が近歩一に集められました。もっとも海軍に行った者も数人はいたかも知れませんが。私達は師範卒の、いわゆる短期現役兵ですから特殊な教育が必要な砲兵・工兵などの特科部隊は無理だったでしょう。歩兵の教練は師範でかなりやっていたから、全員歩兵になったと思います。

黒川 その「短期現役兵」というのは、何ですか。

堀内 当時の兵役の現役期間は、陸軍が二年、海軍が三年でした。ところが師範を卒業して教師になる予定のものは、将来の国民を教育する大切な仕事に就くということで、一種の恩典として現役期間が1年に短縮されました。これが「短期現役兵」です。私達も1年間は兵営で生活すると思っていたのですが、在営中に制度が変わり、五ヶ月で満期となり下士官の伍長に任官して、8月31日に除隊となりました。

黒川 それは何か得したような感じですが、何か理由があって制度が変わったのですか。

堀内 後で聞いたところでは、全国の市町村から政府に師範卒業生の現役期間を短縮して欲しいという嘆願が行ったそうです。本来はすぐ教職に就くべき師範の卒業生が一年間軍隊に



近衛歩兵第一連隊時代

(昭和3年4月)

いってしまうと、その穴を埋めるために代用教員を雇わねばなりません。師範学校は鎌倉だけでなく全国道府県に最低一つずつはありますから、その卒業生の数はかなりの数です。したがってその代わりに代用教員を雇う費用も、各市町村にとっては痛い出費です。なにしろ毎年のごとですし、しかも当時(昭和3年)は不況の最中でしたからね。

黒川 それで兵役を終って、川崎の学校に赴任されたので すね。

堀内 忘れもしない昭和3年9月3日、新前の教員として宮前小学校に着任しました。校長先生より職員への紹介、続いて児童への紹介がありました。私は初めて児童の前で「新前だが、一生懸命やります」と決意を述べました。

黒川 宮前小では何年を担任されたのですか。

堀内 三年の松組という男子のクラスでした。当時は今と違って男女別の学級編成だったのですね。この学級の子供達は、今まで担任が時々変わって不安な気持ちでいたとのことですから、「さあ、今日からは安心して、一緒に楽しく勉強しよう」と励ましました。このクラスは幸いにも三・四・五・六と四年間持ち上がりで、昭和7年3月に私にとっての初めての卒業生として送り出しました。

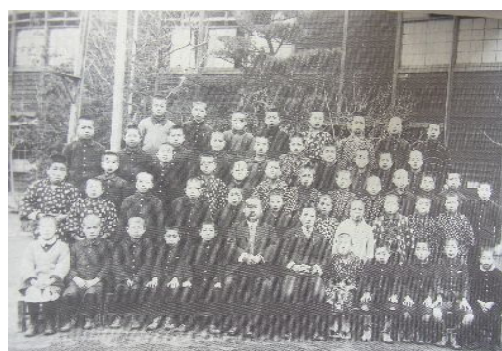


川崎市立 宮前小学校 (昭和5年当時)

黒川 学校の雰囲気は、時代の影響を大きく受けて変わる面があると思いますが、当時の学校の空気はどんな様子でしたか。

堀内 私が新卒で着任した川崎の宮前小は、職員室にいつも笑いが絶えず、和気藹々の雰囲気が漂っていました。先輩方は若い後輩をよく世話し、指導して下さいました。このような学校で新卒時代を送ることが出来たのは、仕合せなことだったと思います。

黒川 先生がお書きになった『百寿記念 私の歌日記撰集』21に「勤め終え 自己研修に 大学へ二部の授業は 厳しかりける」とありますが、昼間の勤務の終わった後に大学に通うというのは大変だったでしょうね。



川崎市立宮前小6年松組児童とともに(S7年2月)

堀内 当時の川崎の若い教員の中には、勤務終了後に大学の二部の授業を受ける人が多かったのです。私もそういう先輩の真似をして、日本大学二部の国文科に五年間学びました。国文科で古典や国文学を学ぶことで、日本文学の奥深さを知ることが出来ました。

黒川 宮前小の後、横須賀の女学校に替わられたですね。

堀内 宮前小には新卒時代から一年半お世話になったのですが、その後にご縁があつて昭和12年に、横須賀に前年新設された市立第二高等女学校に赴任いたしました。

黒川 旧制の高女ですから、今の学年で言うと中学から高校2年くらいの生徒ですね。そこでは大学で学ばれた国語の教師として勤務されたのですか。

堀内 はい、そうです。横須賀第二高女は新設二年目の若い学校で、私は1年生の担任になりました。生徒数は1年100名、2年100名の小規模校でした。生徒たちもきちんとしていて、生徒指導などには何の苦勞もありませんでした。ただ開校後まだ日が浅く、教員も少ない

ので国語担任の私が理科・体操まで受け持たされ当惑しました。当時私から理科・体操を教えられた生徒さんには、申し訳なく思っております。横須賀高女の校長の吉原先生は真に立派な人格者で、とても働き甲斐のある学校でした。ですから出来れば十年くらいは勤務したいと思っていました。ところがこれもまたふとした機縁から、昭和18年の4月から、また川崎に勤務することになったのです。

黒川 その機縁とはどんなことなのですか。

堀内 たまたま参加した国語の研究会でお会いした川崎商業の校長先生に川崎への転勤を勧められたのです。それが18年の1月でした。そして18年4月に川崎商業に着任いたしました。



横須賀市立第二高女生徒とともに・箱根権現

黒川 お住まいが川崎ですから、横須賀に通勤するよりも川崎市内の学校に勤務する方が近くて、ずっと良かったですね。

堀内 私もそう思って異動したのですが、実は結果としては良くなかったのです。

黒川 と言うと、何か問題が起こったのですか。

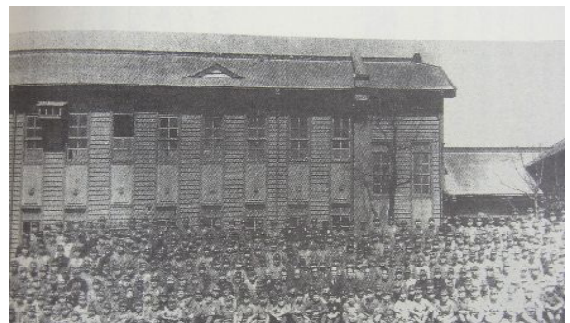
堀内 川崎商業に転任してから1年たった昭和19年4月に、全国の商業学校に冬の時代が来たのです。戦争は益々苛烈となっていたのですが、政府の方針として「今後の実業教育は生産に直結する工業学校を中心とする。商業学校は歴史の古い学校を各県に1校程度残し、それ以外の商業学校は工業学校に転換する」と言うのです。私の勤務していた川崎商業は創立三年くらいの新しい学校でしたから、その転換の対象になりました。

黒川 その話は、昭和10年師範卒の磯子支部の桐生さんからも聞いたことがあります。桐生さんが当時勤務していた横浜商業は商業学校として残ったとのことですが。酷い話ですけど、公教育はいつの時代でもその時の政治の影響を強く受けるのですね。

堀内 川崎商業の在校生は、四年生のみ本校に残り、三年生以下は市立第二工業学校の生徒として分離しました。私も校長から第二工業に行ってほしいと言われたのですが、四年生と共に残る道を選びました。でもせっかく残っても、週に二日の授業日以外は工場に動員され、作業服に地下足袋姿で旋盤に取り組みました。

黒川 最後に残った4年生が卒業すると、学校は自動的に無くなってしまうのですか。そうすると先生としては、その後のことを考えねばなりませんね。

堀内 そうなのです。幸い故郷山梨の甲府中学で国語の先生が一人出征してしまい、後任の人を探しているとのことでした。甲府の校長さんは、ちょうど良いからすぐに来て欲しいということなのです。ところが川崎商業の校長先生からは「後任が見つかるまで甲府に赴任するのは待ってほしい」と言われました。私としても、そろそろ空襲が始まって危険になってきた工場動員の現場に、生徒たちを置き去りにして転任するわけにも行きません。しばらく川崎商業にそのまま勤めていました。



川崎商業時代・夜行軍で宮城遙拝(昭和18年9月)

黒川 それが普通の会社勤めと違って、教育現場の苦しいところですね。なにしろ児童生徒が相手ですから、品物や機械を相手にしているような訳にはいきませんね。

堀内 ところが後任の先生が、なかなか見つからないのです。そのうちに甲府中学から辞令が届いて、俸給まで送られてきました。これには弱りましたね。なにも勤務していないところから給料をもらうことになって、実際の勤務は給料を貰っていない川崎でしているのですから。さすがに川崎の校長さんも困ったらしく、年が明けて1月の2日だったと思いますが、私の後任は教頭(副校長)が担当することになりました。こうして昭和20年の1月に、ようやく甲府中学(現 甲府第一高校)に着任したのです。

甲府中学も当時3年生以上は勤労働員で不在でした。1,2年の在校生は毎朝体育の先生の指導の下に、八ヶ岳おろしの吹く寒い運動場で、上半身裸になり徒手体操をやりました。この裸体操は甲府中学の思い出として、もっとも強く印象に残っています。

黒川 これでやっと甲府での勤務が始まったのですね。

堀内 そうなのですが、それもつかの間で、昭和20年の5月に私に召集令状が来ました。

黒川 そのとき先生はお幾つだったのですか。もう結婚されていたのでしょうか。

堀内 35歳でした。兵隊としてはロートルですよ。もちろん結婚して妻も子もいました。

黒川 それでは出征するといっても、後が気がかりでありあまり意気が上がりませんね。

堀内 しかも出頭を命じられた部隊が、現役のときに入隊した近衛歩兵第一連隊でなく、群馬県沼田の東部第41部隊というところなのです。十五年ぶりの軍隊で、しかも全く知らない部隊ですから心配でした。師範時代の仲間が誰かいるかと思ったのですが、誰もいませんでした。

その部隊の営庭に、召集された兵隊が二列横隊に集合したところ、「前列のものは野戦要員、後列のものは現在地に暫らく残留して待機」と無造作に宣告されました。私は偶然に後列だったので、野戦行きを免れたのです。そのとき私は本当に運命ということを感じました。

黒川 二列横隊の前列と後列で決めるとは、ずいぶん乱暴な酷い話ですね。それでは日本は負けるわけですね。もっともその時は敗戦の三ヶ月前くらいですから、部隊の編成も何も、かなりいい加減になっていたのでしょうかね。

堀内 そう言うわけで、私は暫らくその部隊で訓練することになりました。五十人くらいの兵隊を預かって内務班長をやり、訓練では迫撃砲分隊長をやりました。



堀内先生 103歳のとき、昭和25年度甲府一高卒業生に行なった

私は人生のいろいろな場面で、いつも上司に恵まれたと思うのですが、この時の古文の授業・黒板の前の座っている人が堀内先生。

(他の人は皆甲府一高の教え子)

軍隊生活でもそうでした。私達の中隊長は幹部候補生出身の将校でした。年齢は私より二つ三つ若かったでしょう。この中隊長が皆の前で私を呼ぶときには「堀内伍長」と呼ぶのですが、他の人のいないところでは「堀内先生」と呼ぶのです。私の職歴に敬意を払ってくれたのですね。私はこの人とならば戦場で弾の下をくぐっても良いと思いました。

黒川 先生が召集されたのは、昭和20年5月ですから三ヶ月後には、もう終戦だったでしょう。戦後はまた甲府中学に戻られたのですか。

堀内 昭和20年8月15日、営庭で玉音放送を聞き茫然としました。そして九月に召集解除になり、復員しました。城下町甲府は焼け野原でしたが、甲府中学の鉄筋校舎は残っていました。しかし校舎の窓ガラスは一枚も無く、木枯らしが吹き込み吹雪が舞い込む教室での授業は厳しいものでした。やがて学校は昭和22年4月、甲府第一高等学校と改称され、25年4月より男女共学の普通科高校となりました。

黒川 戦争の時代がやっと終わり、平和になった甲府でそのまま教職を全うされるのかと思ったのですが、履歴を拝見すると再び川崎の中学に戻られたのですね。これはどんな理由からなのですか。もしかすると昭和22年からの六三制実施にともなう義務教育の教員の不足と関係が有るのかなとも思ったのですが。



堀内 私が川崎に戻ったのは昭和28年4月ですから、六三制の実施からはすでに六年も経っていましたし、それとは関係有りません。山梨は故郷でもありますし、甲府で教職を終えるつもりでおりました。ところが昭和28年の1月に川崎市でのかつての教え子のO君が、何十年ぶりかで訪ねてきてくれました。私の自宅に一泊し四方山話の際

百寿の祝賀会・中央が堀内先生(平成19年6月24日)

にO君が「もう一度川崎市に転勤しませんか。住居は私の家の離れ座敷を提供します」と言ってくれたのです。川崎は若い時代に暮らしたところで懐かしさもありましたし、それならもう一度川崎へと思いました。友松会の旧友B君に依頼しましたら、運よく川崎市の臨港中学に欠員があり採用されることになりました。そこで甲府一高の校長先生にお願いして承諾していただき、昭和28年4月に川崎市立臨港中学校に転任したのです。

黒川 その後の略歴を拝見すると、桜本中学校の教頭・校長を経て昭和43年9月に渡田中学校の校長で退職されたのですね。



横須賀第二高女・白梅会の皆さんと(百寿会で)

私が先生の業績で一番素晴らしいと感じるのは、小学校から旧制中学や高女、戦後の高校での教え子、また川崎・横須賀・甲府と教鞭を取られた各地での教え子の方たちが、何十年も後まで先生をお招きしてしばしば同窓会を開催していることです。甲府の同窓会の方々などは先生100歳と103歳のときに「記念授業」を開催して、先生から授業を受けたとの事です。別れてから何十年も後まで、教え子とこのような交流があるのは、教育の道に生きた者に取って、何よりも素晴らしい勲章と言える

でしょう。全く羨ましく思います。どうか今後もお元気で、教え子の皆さんとの交流をお楽しみください。本日は先生のお体の調子も考えず、思わず長時間にわたりお話を伺いまして申しわけございませんでした。ありがとうございました。

堀内先生は、本年(平成25年)8月17日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。なお、告別式の会場には、甲府一高の教え子たちの歌う「仰げば尊し」の曲が流れたとのことです。 <2013.9.4>